B 64　ドレスの色彩嗜好と形態・素材との関係（第5報）

東京家政大家政　木曽山かね　○長塚こずえ　雲田直子
東京家政学院短大　今井弥生　中小企業大　志満津発司

目的　色彩・意匠学部会の調査研究グループは，引き続き都内並びに近隣から通学する学生が，自ら着用したいと考える春夏向きのワンピース・ドレスをデザインさせた。そこで，その素材とスタイルとを分析、検討して，被服造形のための基礎資料とすることを目的とした。

方法　1）対象　東京家政大学服飾美術科学生2年192名（内訳1982年90名，1984年102名）年齢18～19才　2）生地購入時期　1982年，1984年春に限定した。3）検討　素材生地の鑑別　日立自記分光光度計で測色して色調を分類し，素材、柄などの傾向をみた。またスタイルについて，スカート，衿，袖などの傾向を分析した。

結果　形態については，衿なしが多い。衿明きの形の嗜好傾向は，'82年，'84年の間に大きい差はない。スカート丈は，'82年夏にミニ丈の傾向が顕著で36.7％みられ，'84年はノーマル丈が68.6％をしめている。素材はポリエステルまたは混紡が33％をしめている。麻を嗜好する度合は'84年が多い。'82年には先染の木綿が多くみられた。色彩は無彩色が約20％をしめ，'82年は花柄のプリント，格子，縞など柄物が多く，'84年は無地が多い。色の好みはブルー系統が最も多く，次に赤，ピンクの系統が好まれている。

このように学生が最も着用したい春物のワンピース・ドレスは，学生らしさの中にも，ファッション性を先取りしていることが考察された。